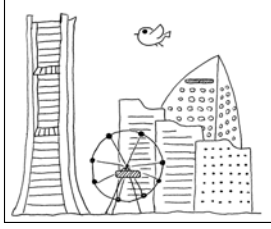


２・３面　特集記事
～ご家庭での会話、減っていませんか？～
『話してみよう、聞いてみよう！』
コラム(1)　親から働きかけること。
～ヴィヒャルト千佳こ先生に聞く～
コラム(2)　ここに母校あり「横浜市立東俣野特別支援学校」

第151号

PTAよこはま

発行日／平成25年2月1日　発行者／横浜市ＰＴＡ連絡協議会　横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会内 TEL662-7080 FAX662-6084　編集／平成24年度 常置広報委員会

いじめに対するおとなの認識を考える

いじめって何ですか？

平成24年度横浜市ＰＴＡ交流研修会

平成24年10月10日に関内ホールで「平成24年度横浜市ＰＴＡ交流研修会」が開催されました。講師にＮＰＯ法人ジェントルハートプロジェクト理事小森美登里さんをお迎えし、「いじめって何ですか？」というテーマでお話しいただきました。

小森さん自身、いじめによりわが子を自殺で失うという悲しい経験をされています。講演前に家族旅行などのビデオ映像が流れました。大切な思い出が突然途絶えてしまった悲しみは、見ている側にも伝わってきました。その後小森さんは、自分を落ち着かせるような口調で、ひとことずつかみしめながらお話しくださいました。

◈大津の報道をきっかけに

平成23年10月に滋賀県大津市でいじめにより自殺した生徒に関する報道があったことは記憶に新しいでしょう。これをきっかけに、社会や学校が「いじめ」を直視するようになった反面、「被害者側にも問題がある」という悲しい意見もあります。

「命の大切さ」「心を伝えること」を私たち大人が子どもへ発信し、大きな事例から大人は学んでいかなければいけない、と小森さんはおっしゃっていました。

◈遺族の気持ち

小森さんは、遺族としての気持ちをこう話されました。

「子どもを自死で失って、すべて何もなくなったように感じた。一番不幸なのは、私だと思った。何をしたらよいのか見つからず、自分が娘を助けてあげられなかったと責め続けた」。

社会でいじめによる自殺が取り上げられなくなると、いじめがなくなったように思われますが、その間も自殺が起こり続けています。日本では19歳以下の子どもの死因のトップは自殺で、年間600人もの子どもたちが自ら命を絶っています。

にもかかわらず、再発防止策が講じられないままです。「心とは何か」がわかっていない大人がどう心を伝え育てているのか、小森さんはそういう疑問を持ったそうです。

◈みんな被害者

いじめを受けた子どもはもちろん被害者ですが、加害者や、傍観者も被害者と言えます。

加害者の子どもは、親から愛情がもらえない、暴力を受けるなど心にストレスを抱えていることがあります。傍観者の子どもは、いじめを目にして助けられないストレスを抱えたり、助けたことで今度は自分がターゲットにされてしまうのです。

◈子どもが相談しない理由は

ストレスを抱えた子どもたちは、なかなか大人に相談しようとしません。

それは、「どうせ相談しても解決しない」「相談すると、大ごとになって今より辛い立場になる」と考えてしまうからです。また、大切に思う家族だからこそ言えないということもあります。

子どもが相談してくれるきっかけは、「たいしたことないんだけど」と切り出すことが多いようです。できれば相談しに来た子の話を「辛かったね」「よくがんばったね」と受けとめて、スポンジのように話を聞くことが大切だと小森さんはおっしゃっていました。

◈子どもからのＳＯＳ

「反抗期」は、さまざまな要因を秘めています。学校での友人関係のストレスから、本来甘えられる存在である母親にあたってしまう。生活態度が急変したり、感情の起伏が激しくなる、過食や拒食など、日常の中での変化をいかに察知するかが大切です。

◈まとめ

同時開催でパネル展があり、自殺で亡くなった子どもたちからのメッセージが展示されていました。たくさんの子どもたちが遺した言葉を、私たち大人が子どもたちに伝え、明るい未来を守っていきたい、そう願わずにはいられませんでした。

小森美登里（こもりみどり）さん
NPO法人ジェントルハートプロジェクト 理事

1957年神奈川県生まれ。1998年に、高校入学間もない一人娘香澄さんを自死で失う。いじめのない社会、温かい教室と学校を目指し、2002年にジェントルハートプロジェクトを立ち上げる。翌年NPO法人となり、その後活動は全国展開する。著書『優しい心が一番大切だよ』『いじめの中で生きるあなたへ』（ともにWAVE出版）

平成24年度研究大会参加報告

第60回日本ＰＴＡ全国研究大会京都大会

古都・京都にて平成24年8月24・25日に開催され、横浜市Ｐ連からは52名が参加しました。

一日目は京都府内各地で10分科会が開催され、主に京都府内のＰＴＡによる実践発表や研究討議などを参加者がそれぞれの活動に重ね合わせて、有意義なものとなりました。二日目は国立京都国際会館にて全体会が行われました。記念講演では「スマイル・レボリューション」と題し、歌手で女優の加藤登紀子さんに、東日本大震災でのボランティア活動を通して人のつながりや家族の大切さを改めて感じたことや、世の中を演題である「微笑みの革命」で変えていってもらいたいなど、貴重なお話をしていただきました。続いて「がんばろう日本！がんばろうＰＴＡ！」と銘打った全体会では「翼をください」「ふるさと」を被災地の早期復興を願い、全体合唱しました。閉会式では日本ＰＴＡの谷副会長が、被災地からのお礼や引き続きの見守りのお願い、被災者としての気持ちをメッセージとして伝え、閉会しました。

第68回指定都市ＰＴＡ情報交換会名古屋大会

平成24年9月13・14日に、「日本のど真ん中でＰＴＡの環をひろげよう」の大会スローガンのもとに開催されました。

横浜市Ｐ連からは正副会長・事務局長の5名が参加しました。

大都市ならではのＰＴＡの課題について、北は札幌から南は福岡の13指定都市ＰＴＡ役員が集い、今後のＰＴＡ活動の充実を図るべく情報を交換しました。

一日目は、4分科会（組織運営・研修活動・組織連携・広報）等が行われ、二日目の全体会では、分科会報告に続いて、日本におけるホスピタル・クラウンの第一人者・大棟耕介氏による記念講演が行われました。次回は平成25年9月19・20日、横浜での開催となります。

第44回日本ＰＴＡ関東ブロック研究大会静岡大会

平成24年10月19・20日に「集い学び　こころつなごう　ふじのくに～子どもたちの未来のために～」というスローガンのもとに開催され、横浜市Ｐ連からは63名が参加しました。

一日目は、山田小（都筑区）が「広報ＩＴ」、大道小（金沢区）が「環境教育」の分科会において事例発表をし、市Ｐ連長島前会長が「家庭教育Ｂ（食育）」で助言者として運営に携わりました。二日目の全体会はフォトジャーナリスト渡部陽一氏の講演がありました。

《子どもたちのために》をベースにＰＴＡ活動を行い楽しんでいると感じ、有意義な二日間を送ることができました。

感謝状贈呈式では長島前会長が表彰されました。

次回は平成25年10月26・27日、神奈川大会です。

「ＰＴＡよこはま」150号お詫びと訂正　4面に掲載の「日中友好少年少女の翼」参加生徒の感想文に、「宝物の六日間　中木田裕子」とあるのは、正しくは「宝物の六日間　中来田裕子」でした。中来田さんのお名前を誤記しましたことをお詫びし訂正いたします。

平成24年度 優良ＰＴＡほか受賞校(者)

＜文部科学大臣表彰＞
優良ＰＴＡ
権太坂小学校ＰＴＡ
日吉台小学校　保護者と教職員の会
＜神奈川県教育委員会表彰＞
優良ＰＴＡ
白幡小学校ＰＴＡ・奈良中学校ＰＴＡ
西富岡小学校ＰＴＡ・東山田小学校ＰＴＡ
茅ケ崎東小学校ＰＴＡ・軽井沢中学校ＰＴＡ
岩崎小学校ＰＴＡ
藤が丘小学校　父母と教職員の会
美しが丘東小学校　保護者と教職員の会
＜日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰＞
団体表彰
西富岡小学校ＰＴＡ・東山田小学校ＰＴＡ
茅ケ崎東小学校ＰＴＡ
個人表彰
・横田竜一　・鈴木秀髙　・永池啓子
・細山洋子　・渡辺祐子　・鈴木　進
＜全国小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール＞
日本ＰＴＡ全国協議会会長賞
山田小学校ＰＴＡ

第30回
横浜市PTA連絡協議会
山下公園 ファミリー写生大会
平成25年4月28日（日）9:30～14:00
雨天予備日4月29日（休日）
時間内にご自由においでください
詳しくはチラシ、HPにて
協賛：ぺんてる株式会社、桜木町ぴおシティ、氷川丸
ぺんてる

~ご家庭での会話、減っていませんか？~
『話してみよう、聞いてみよう！』

「おはよう」「おやすみなさい」
子どもが小さいころは欠かさなかった毎日の挨拶
今でも続いていますか？
親は仕事、子どもは塾や習い事。
「忙しいから後で」とタイミングを逃しているうち
子どもは挨拶さえしなくなることがあるそうです。
しかしほんの少しでも会話があれば
問題が小さなうちに早く気づいてあげることができ
子どもから相談しやすい環境が生まれます。
今回はいくつかの「子どもを守る環境づくり」のきっかけをまとめてみました。
記事を見ながら家族で話をしてみてはいかがでしょうか。

地域で、家庭で災害に備える いま、できること

２０１１年３月11日、地震直後に何をしましたか？　今、災害が起きたらどうしますか？

大切な家族を守るために何ができるのか、その手掛かりを得るために、港北区の北綱島小学校への取材を行いました。北綱島小では東日本大震災後、地域、学校、家庭が連携し、遠藤会長はじめＰＴＡも主体的に参画して、子どもたちと町を守るために防災教育に力を入れています。自ら考え、自ら備え、自らの安全を確保し、地域を守る。それを実践できる子どもたちの育成を目指して、各学年で総合的な学習活動を通して地域の自然と社会、災害についての理解を育てる教育に取り組んでいます。

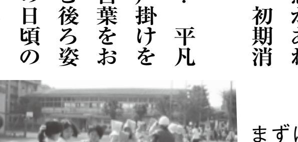
防災の基本は〝自助、共助〟。その内容を聞くにつれ、日常の中での親子の会話を通じた情報の伝達、そしてそれ以上に信頼関係作りの大切さを感じました。

たとえば、北綱島小の「家庭防災マニュアル」（北綱島小のホームページからダウンロードできます）の中に家族で話し合うべき項目について、次のものがあります。

- 家の中のぜったい安全な場所
- 地震のあと、すぐにコンセントをぬいたほうがいい、熱くなる電気機器
- ばらばらになった家族が集まる場所
- 親がいないときにお世話になれる人

「しっかり話し合っています」といえる家庭はどのくらいあるでしょう。まだの家庭はもちろん、話しましたという方も、今一度話し合ってみてください。何度も確認することで「わが子は自分の身を守って親を待つことができる」という信頼感が生まれます。この信頼感があれば、親は自分の命を守ることに専念し、初期消火や人命救助などにも協力できます。

そして、今からすぐにできることは？　平凡なようですが家族や隣近所への挨拶や声掛けをすることです。また、鷲山校長先生の言葉をお借りすると大人が真剣に防災に取り組む後ろ姿が最大の防災教育となります。災害への日頃の備えに加え、大切なのは日常的なコミュニケーションの積み重ねかもしれません。ぜひ、取り組んでみてください。

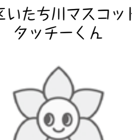

まずは初期消火！保護者、職員、６年児童連携してのバケツリレー

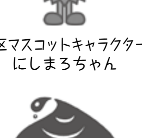
18区のキャラクターやマスコット、いくつ知ってる？

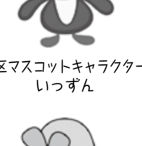
横浜市には、ゆるキャラ・ご当地マスコット・シンボルマークなどがたくさんあります。今回は各区からひとつずつ集めてみました。それぞれ各区にちなんだ特徴や由来があり、調べてみると意外な発見があるかもしれません。

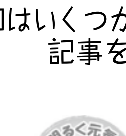
お子さまとの会話の糸口に、自分の区はどれか探してみたり、お気に入りを教え合ったりしてみてください。

栄区いたち川マスコット タッチーくん

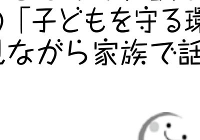

西区マスコットキャラクター にしまろちゃん


泉区マスコットキャラクター いっずん

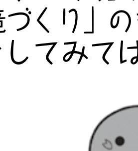

©横浜市港北区ミズキー

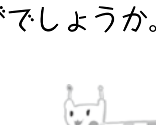


港南区 地域活動応援ロゴマーク



都筑区マスコットキャラクター つづきあいちゃん


緑区マスコットキャラクター ミドリン


戸塚区のマスコット ウナシー

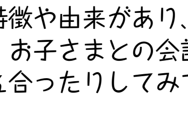
金沢区広報キャラクター ぼたんちゃん

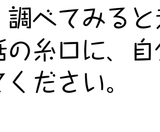
南区マスコットキャラクター みなっち

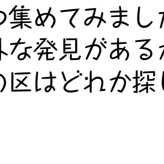
鶴見区のマスコット ワッくん

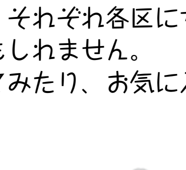
磯子区マスコットキャラクター いそっぴ

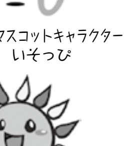
保土ケ谷区マスコットマーク カルガモ・カールズ


瀬谷区マスコットキャラクター せやまる


神奈川区マスコットキャラクター かめ太郎


西区マスコットキャラクター スウィンギー


青葉区マスコット なしかちゃん


旭区マスコットキャラクター あさひくん

なんで子どもはタバコやお酒がいけないの？

人間の身体と脳は20歳頃まで成長し続けるといわれています。そんな大切な期間にお酒やタバコを摂取すると、成長を阻害するだけではなく、いざやめようと思っても、大人に比べてやめにくく、また重病での死亡率が高くなります。

以前行われた調査では、10代でタバコを始めた人は20代で始めた人よりガンによる死亡リスクは約3倍、心臓病では約5倍に高まるという結果がありました。

また警察の方にお話を聞くと、お酒とタバコは、もっと怖いもの、すなわち危険な薬物の入口によく使われているとか。

友だちや先輩からタバコやお酒に誘われ1回受けてしまうと、それをネタに脅されてやめられなくなり、買うために万引きや盗みに手を染めていき、ついには危険な薬物の誘いも断れなくなるというケースが多いようです。

横浜でも薬物を使用した死亡事件が増えてきています。薬物には合法的にお店で買えてしまうものも数多く、常に危険が身近にあるといわなければいけない状況です。ではそんな危険な目にあわないためにはどうすればよいのでしょう。

警察の方に話をうかがいました。

「それは、入口である1回目のお酒やタバコの誘いを断る勇気をもたせることです。もし、すでに経験してしまっていても、親子で話し合うことができれば、すぐにでもやめさせることができます。大切なのは常に相談できる環境を作っておくこと。気軽に話ができる家庭環境や友だちをもつことがとても重要です」

簡単なようでとても難しいことかもしれません。ですが、かたい話だけではなく、晩ごはんを食べながら、おやつを食べながら、いっしょに買い物に行く途中で〝家族で気軽におしゃべりができる〟関係作りをしていきましょう。

親から働きかけること。ヴィヒャルト千佳こ先生に聞く

親子のコミュニケーションが大事だと分かっていても、どうすればうまくいくのかお悩みの方も多いと思います。長年、スクールカウンセラーとして子どもたちの心と向き合ってきたヴィヒャルト千佳こ先生に、親子のコミュニケーションについてお聞きしました。

――そもそもコミュニケーションって何ですか。

改めて問われると難しいですよね。コミュニケーションとは、信頼です。コミュニケーションをとるということは、信頼関係を築く活動と置き換えると分かりやすいかもしれません。子どもはいくつになっても親の無条件の愛を欲しているものです。無条件の愛は、ひとことで言えば、衣食住など命にかかわる安心を得られ、命の存続が保障された状態です。信頼にはこの安心感が何よりも必要です。この安心感があれば特別なことは必要ありません。

――ではどうしたらいいのか教えてください。

コミュニケーションを築くには子どものころからのスキンシップが欠かせません。スキンシップが子どもの成長に与える影響は非常に大きいです。ただ、成長に応じた変化が必要で、常に同じものでいいというわけではありません。たとえば「おはよう」「行ってらっしゃい」のような挨拶や「肩にホコリが」と軽く触れるなど、短くても数多く、親が子どもに〝常に〟関心をもっている態度をアピールし「いつでも相談してね」と、親が発信し続けることが一番大事です。親の無関心ほど子どもを傷つけるものはありませんから。家族会議でじっくりなど難しく考える必要はありません。

――最後に、保護者にメッセージをお願いします。

子どもには、ぜひ生声（肉声）で話しかけてください。いろいろ便利な道具がありますが、直接声掛けすることにはかないませんからね。特別なことではなく、自分の気持ちをそのまま伝えてください。親は子どもの支援者であり相談者。話を聞いて共感し、いっしょに悩んであげてください。子どもには信頼できる相談相手が一人でも必要です。それが必ずしも親に限定される必要はないのですが、現実的には、まず親が子どもにとって身近な相談者であることが必要でしょう。子どもが困って助けを求めてきたときに、何があっても見放さない存在であってほしいと思います。

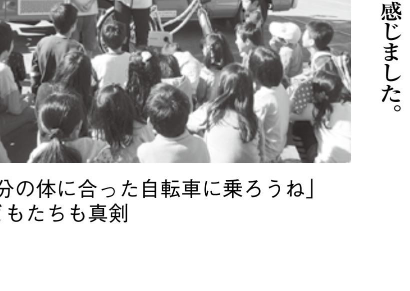
ヴィヒャルト千佳こ先生
臨床心理士
精神科心理カウンセラー　30余年
平成7年からスクールカウンセラー
横浜市スクールスーパーバイザー

あなたの自転車の乗り方 それで大丈夫？

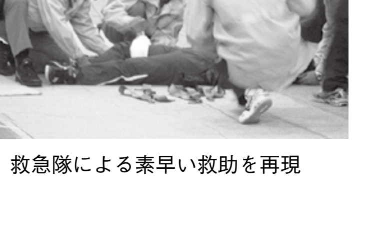
都筑区内初の設置となる自転車レーンの走り方と自転車ルールの徹底指導が、警察署より、11月の親子交通安全教室において、つづきの丘小で行われました。

自転車は〝軽車両〟であり、原則車道を走らなければなりません。走行が許可されている歩道であっても歩行者が優先。歩行者を妨げるような乗り方や運転は許されません。ですから、もしも歩道で自転車が歩行者と接触事故などを起こせば、たとえ自転車を運転していたのが幼い子どもであっても、多額の賠償金が課せられることもあるそうです。

参加した保護者からは「いつでもどこでも子どもが優先だと思っていた!?」という声も聞かれ、自転車走行のルールについて親子ともにきちんと理解する必要性を感じました。


「自分の体に合った自転車に乗ろうね」子どもたちも真剣

また、同じく都筑区の東山田小では、プロのスタントマンが実際の自転車事故を再現するという、実践型の交通安全教室が開催されました。こちらも区内初の試み。二人乗りはもちろんですが、携帯電話やヘッドフォン、傘をさしながらといった〝ながら運転〟の危険性、交差点での出会いがしらの衝突事故の怖さを目の当たりにし、それまで元気いっぱいだった子どもたちでさえも静まり返る場面がありました。


救急隊による素早い救助を再現

最近、エコや健康ブームから便利な乗り物としてすっかり定着している自転車。しかし、運転者にも歩行者にも安全な乗り物であるためには、運転時のルールを守らなければなりません。

警察の担当者から「ルールは手段であって目的ではありません。親子で、お互い無事に家に帰ってきてほしいと願う気持ちを素直に伝え合うことができれば、ルールもマナーも自然と身につくものだと思います。また、もしも事故に遭ってしまったり、事故を起こしてしまったら、絶対に隠したり嘘を言ったりしないで、何でも話せる家族の雰囲気作りが大事なんです」という心に残る言葉もいただきました。

自転車事故の防止にはルールとマナーの自覚だけではなく、家庭でのコミュニケーションも大事なようですね。

携帯やPC、ゲームのネットトラブルって？

今や多くの子どもたちが持っているゲーム機。年齢があがるにつれて所持率が増える携帯電話。最新のゲーム機の中にはインターネットに接続できるものもあり、子どもたちをとりまくネット環境はかなり身近になっています。

小学校の中・高学年ともなると、自分のブログを持ったり、掲示板（プロフ、ツイッター、サイト）を利用している子どもたちもかなり大勢います。

「友だち同士の公開だから大丈夫」と思っていたら大まちがい。他人が簡単に入り込んできて、見たり書き込んだりできます。匿名にしていても、パソコンに詳しい人ならほんの少しの情報（たとえば学校名だけでも）があれば、誰のブログか突き止め、名前まで特定されてしまう場合もあります。ネット上のトラブルから実際のいじめに発展したり、そのアドレスの人物になりすまして他の友達のところへ入り込んで書き込んだり。しかも、一度でもネットに書き込んだことは、後から削除しても完全に消すことはできません。

よく〝無料ダウンロード〟というのがありますが、それも同じです。いずれの場合も個人情報が流出する危険があります。どうしてもダウンロードがしたい場合は、ダウンロード元が信頼できる企業かどうか確認するために、その注意事項を最後までしっかり読みましょう。

有害サイトへのアクセスや〝怪しい〟メールを受信できなくする〝フィルタリング〟というものがあります。フィルタリングは、良い情報・悪い情報、見たい情報・見たくない情報を選択する手段です。神奈川県では青少年育成条例で子どもの携帯電話にフィルタリングを設定することが決められています。さまざまなトラブルから子どもたちを守るためにも、携帯電話やスマートフォン、パソコンそれぞれに信頼できる会社のフィルタリングを必ず設定しましょう。

また、子ども同士で最も多いのが〝チェーンメール〟です。「仲のいい友だちからきたものだから回さなくちゃ！」と思ってはいけません。もしも回してしまうと、場合によっては通信妨害などの理由から、三千万円もの罰金刑に値することもあるのです。もし止めるのが不安なときは、専門処理サイト※へ回しましょう。

ネットの世界は、とても危険な場所でもあるということを、親子共通知識として覚えておきましょう。

※チェーンメールを処理するアドレスの一例
◆gomi1@k-pta.jp　◆pta@toride.com

「ルールを守って楽しくね♪」

ここに母校あり　～未来へはばたけ～
横浜市立東俣野特別支援学校

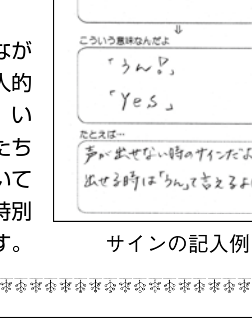
横浜市立東俣野特別支援学校の児童・生徒数は、小学部から高等部まで全校合わせて38名。横浜市で一番小規模な、アットホームな雰囲気の特別支援学校です。また、同一敷地内に併設された小学校とは校舎がつながっており、小学部・中学部・高等部すべての児童・生徒との交流が日常的に行われています。このことによって、特別支援学校の子どもたちの学校生活がより楽しいものになるだけでなく、小学校の子どもたちにとっても、障害のある人への理解や思いやりが自然に育ち、お互いにとって良い環境となっています。

東俣野特別支援学校には主に重度重複障害の子どもたちが通っており、一見すると、コミュニケーションをとることが難しそうな子どもがほとんどです。そこで昨年度より取り組んでいるのが、『IDDブック』の作成です。IDDブックとは、『いつでも（I）・どこでも（D）・誰にでも（D）』子どもの気持ちを伝えるための本です。この取組の中心となっているPTA《チーム絆》の皆さんは、次のように語ってくださいました。

「障害の重い子どもたちも、皆それぞれ子どもたちなりのサインを持っています。たとえば『左目でウィンクする＝Yes』や『グーの手をあごに当ててうなる＝退屈、寂しい』『「あ゛ー!!」と高い声で叫ぶ＝とっても楽しい！』など、子どもによって実にさまざまです。

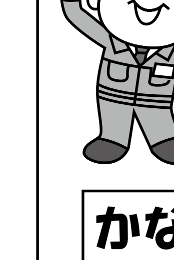
しかしこれらのサインは、保護者や担任の先生など、限られた人にしか知られていないのが現状です。そこで、サインの通訳本のようなものがあればと思い作成したのが、IDDブックです。IDDブックを通じて『伝わる』経験を積むことで、子どもたちがさらに意欲的にサインを出せるよう促せたらと思います。周囲の方々にも、子どもの気持ちを汲み取るアンテナをより一層はるきっかけとしていただけたら嬉しいです」

小規模校ながらも豊かな人的環境の中で、いつも子どもたちの笑顔が輝いている東俣野特別支援学校です。



サインの記入例

パパは車！ママは洋服！
ぼくはスポーツ！わたしは音楽！
家族で楽しい！
トレッサ横浜
（220店舗）
トレッサ横浜
営業時間 10:00～21:00
※一部営業時間が異なる店舗がございます。
水曜５時はおトクがいっぱい！
水 水曜5時の市 夕方 5
全館あげてのおトクな一日
毎月さいごの金曜日は
トレッサデー
環状2号線沿い師岡町交差点そば
土・日は、さらに＋450台
P 駐車場2,700台 全日無料
トレッサ横浜　検索


“夏休み親と子の工作教室”でおなじみの
神奈川土建です
住宅リフォームのご相談は
横浜市内の建設業者へ
かながわ職人 NAVI　検索
http://www.shokuninnavi.com/
神奈川土建・横浜市協議会　tel:045-453-9806

横浜市ＰＴＡ連絡協議会の会員の皆様へ
横浜市ＰＴＡ連絡協議会の児童生徒用
「こども総合保険」発足！
（平成25年4月に募集予定）

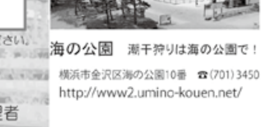
＜当制度の特徴＞
【特徴1】ケガ、賠償事故安心の２４時間補償
【特徴2】団体割引30%適用（但し、加入者数1万人以上の場合）
【特徴3】長期（1年～6年間）のご契約でお得な保険料設定
【特徴4】賠償部分充実の1億円補償をご用意（自転車事故も補償）
【特徴5】充実の入院通院補償
【特徴6】天災（地震等）によるケガ、特定感染症（O157など）、熱中症、細菌性食中毒等を補償
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社　担当課：横浜中央支店金融公務課　TEL045-224-3519
募集代理店：株式会社東海日動パートナーズ横浜　本店　TEL045-227-5777
詳細は後日配布予定のパンフレットをご覧ください。
この広告はこども総合保険の概要についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。また、詳しくは「ご契約のしおり（約款）」をご用意しておりますので、必要に応じて代理店ご請求ください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。
2013年1月作成 12-T-05465

ズーラシアに新エリア誕生！
アフリカサバンナゾーン一部開園！
2013年4月19日（金）

入園料割引券　有効期限 平成25年4月7日（日）まで
ズーラシア入園料１００円引・野毛山動物園にてポストカードプレゼント・金沢動物園入園料１００円引いずれか１つにご利用いただけます。
ズーラシアに遊びにいこう！
こちらの広告切り抜きを入園口受付提出で入園料100円引とさせていただきます。（本券1枚につき4名様まで）
大人 600円→500円　中人・高校生 300円→200円
小学生 200円→100円　小学生未満無料

●クーポン利用日	●本日のご来園人数
平成25年　月　日	大人　名 高校生　名 中学生　名 小学生　名 未就学児　名

※休園日はご利用いただけません。　※事前に上記枠内をご記入ください。
※コピー及び団体でのご利用、他サービス券との併用はできません。
※駐車場は有料（1回1000円）です。
よこはま動物園ズーラシア　指定管理者
横浜市旭区上白根町 1175-1　イベント情報はこちらのHPでチェックを！
☎(959)1000(代)　http://www2.zoorasia.org
公益財団法人 横浜市緑の協会 Yokohama Greenery Foundation

山手西洋館
第７回横浜山手芸術祭開催中！ 1/26～3/3
http://www2.yamate-seiyoukan.org/

海の公園　潮干狩りは海の公園で！
横浜市金沢区海の公園10番　☎(701)3450
http://www2.umino-kouen.net/

《第56回PTA音楽交歓のつどい》

平成24年11月27日、28日、29日の三日間にわたり、神奈川公会堂において、第56回ＰＴＡ音楽交歓のつどいが開催されました。

本年で「ＰＴＡ音楽交歓のつどい」も56回目を迎えました。横浜市ＰＴＡ連絡協議会は「笑顔のために今できること」のテーマのもと、互いに支えあうやさしい社会の実現を願って活動をすすめています。

音楽は世界共通で、たとえ言葉は通じなくても心が通じ合う素晴らしい力をもっています。今回の「ＰＴＡ音楽交歓のつどい」に参加された方々から歌が大好きで歌うことが本当に楽しいという思いが伝わってきました。出場された方々それぞれの個性や透明感あふれる歌声、心温まる素敵なハーモニーが会場いっぱいにひろがり、見ていた私たちも日ごろの忙しさを忘れ、たくさんの勇気と希望をもらいました。

男性の指揮者・伴奏者もステキでした

結成10周年を記念して衣装を新調！

♪参加者の声♪

・年に一度の発表を励みにして練習しています。日ごろの成果が出せて、楽しく歌うことができました。

・他の団体も年々、さまざまな趣向を凝らして個性を出してきているので見ていても楽しかったです。

・子どもたちが歌っているのを聴いてこの曲を選びました。親子でハーモニーを奏でる楽しみも体験できました。

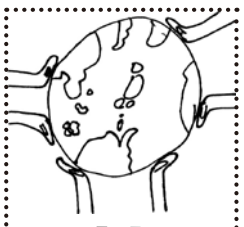
・今年度卒業するメンバーが多くて来年度の存続が心配です。新メンバーを多数迎えて、来年もぜひ、参加したいです。

・今年結成52年を迎えました。みんなで心を合わせて歌い上げる喜びを子どもたちにも味わわせてあげたいです。

多くの方々に支えられたこのつどいが、これからも途絶えることなく続いていくよう願わずにいられない三日間となりました。

魅力あるダンスとともに…

ホールに響く、温かく包み込むような時間（とき）の流れを次回は皆さんもぜひ、体験しに来てみませんか。



横浜市ＰＴＡ連絡協議会研修会

地球のステージ５

●果てなき地平線●

桑山紀彦（くわやまのりひこ）さん

ＮＰＯ法人地球のステージ代表理事。東北国際クリニック院長。世界の被災地・紛争地で国際医療支援活動に携わる。www.e-stageone.org

平成25年1月11日、関内ホールにて横浜市Ｐ連研修会「地球のステージ５～果てなき地平線～」が開催されました。桑山紀彦さんの語りと演奏とともに、大画面に世界中のさまざまな出来事が映し出されるこの公演は、どう生きるかを見る人に問うているようです。

国際協力篇

パキスタンは七年前の大地震で被災した。タンダリの難民キャンプでは診療所作りから始め、治療にあたった。

子どもたちとはいっしょにサッカーをする。初めは自分本位ですぐにけんかが起きたが、やがてルールを守り協力することを覚え、試合ができるまでに心の成長をみせた。

バラコットで配給をしていたとき、二日後の配給チケットを持ってきた14歳のワジームに、思わず持っていた風船を手渡した。彼は「僕は命を守る物をもらいに来たのだ」と投げ返した。後日、彼を探し出して時計とヘッドライトをプレゼント。同時にどうしても渡したかった風船を差し出すと笑顔で受け取ってくれた。将来の夢を問うと地震のとき助けてくれた軍隊に入ると言うが、少しして本当は写真を撮りたいと話した。地震があったからこその出会いがある。人間は留まっていない。いつも進んでいく。少しでもよい方へと。

ガザ危機篇

パレスチナ・ガザ地区にある国境沿いの町ラファ。空爆で傷ついた子どもの心のケアで絵を描いてもらう。13歳のモハマッドは一年目、黒一色の絵を描いた。「色は平和と自由を表す。空爆で破壊されたここに色はない」と。だが二年目に描いた絵には色が使われていた。そして、「日本へ行きたい。ジャーナリストになって世界の人にガザのことを伝えたい。またガザの人に世界を知らせたい」と語った。彼の叔父はインターネットを使ってガザの現状を発信し続けている。彼もまたどんな状況でも自分の道を歩む決意をしている。「僕たちには安全で平和に暮らす権利がある」。

描くことを通じて心のケア

ヒロシマ篇

60年以上前に原爆で破壊された広島。街は立派に復興しているが、原爆の子の像のモデルとなった佐々木貞子の母校は荒れている。先生は「これは戦争と同じではないか」と生徒に問いかける。広島の人も含め、人間は忘れてしまうもの。だから、訪れる人たちに体験を語り伝える渡辺さんや、折鶴を乗せた紙飛行機を配り続ける川本さんのように伝え続けていくこと、そこに意味がある。

東日本大震災復興篇

被災地の小学生あいちゃんは最近元気がなくなった。箱庭に震災時の町の様子を再現してもらうと、仲良しの友だちが亡くなったこと、みんなその話題を避けるため友だちが忘れられてしまうと感じることを話し、元気を取り戻した。心の中にためずに吐き出させることで前へ進むことができる。

瓦礫から掘り出したものを使ってガレッ器（楽器）を作り、子どもが作った詩に曲をつけて演奏会。〝いろんなものをなくした時、大切なもの何かわかった。さみしい事、こわい事、生きてたから感じられた〟。また、子どもたちに出演してもらっての映画作りもした。忘れられないように発信していく、それが自分たちの責任だと思う。

横浜の親たちへ

公演後、桑山さんは「横浜は都会で情報が多く、本物は何かと子どもが迷う。そんなときは親が『本物はこれ』と自身の姿で示してほしい。ＰＴＡ活動も仕方なくではなく積極的に係わり、盛んにしていってほしい」と優しい口調で話しました。

第４回市Ｐ連三行詩コンクール

テーマ「家族のきずな・我が家のルール」「よこはま」

平成24年12月８日、横浜情報文化センターにて第４回市Ｐ連三行詩コンクール表彰式が行われました。

総数825点の作品の中から、会長賞・奨励賞を選考し、そのうち15作品を、文部科学省・日本ＰＴＡ共催全国コンクールに推薦しました。家族愛・地域愛があふれている作品ばかりで心が温まりました。

《講評》生涯学習文化財課主任指導主事　田中光信

受賞おめでとうございます。応募された三行詩は、優劣つけ難いすばらしい作品ばかりで、選考するにあたって大変苦労いたしました。この三行詩に込められました家族愛、家族のルール、絆、夢、希望等の皆さんの思い・願いは、読む人に大きな感動を与え、ほのぼのとした温かい気持ちになることでしょう。みなさんのような優しく、すてきな思いを綴られる人がますます増え、笑顔あふれる家庭が多くなることを切に願っています。

《児童生徒の部》

・みんなでまもろうママの赤ちゃん。おふろそうじは、じゅんばんこ。
　生まれてくるまでがんばるぞ。　平山堅斗（港北・小机小２年）
・お母さん　気持ちは分かるが　でもうるさい　市川叶望（西・東小４年）
・家族みんなでよりそって、せま苦しさが安心感。
　いいゆめ見れそう、また今夜。　川村采加（泉・東中田小４年）
・「うちはうち！」「よそはよそ！」　それが母の決めゼリフ　涌井里緒（金沢・並木第四小５年）
・５年生　家族写真が　てれくさい　太田智也（港北・師岡小５年）
・おーおはよう　テンション低いとやり直し　元気なあいさつ　朝の始まり　倉俣せな（都筑・東山田小５年）
・兄弟げんかは大歓げい
　でも、友達に兄弟の悪口は言わない　母が決めた、絶対のルール　小林　怜（戸塚・川上小５年）
・去年より　五メートル長く泳げた日　空にとどろく　母の歓声　渡辺理絵（旭・希望ケ丘小６年）
・どうしたの？　弟には気付かれちゃう　笑顔もなみだも分けあおう　岩井聡美（旭・中沢小６年）
・最近は正座させられ叱られる　母の背を越した姉と兄
　もうすぐ私も仲間入り　岩瀬ななみ（金沢・釜利谷中１年）

《一般の部》

・思春期のつい出てしまう悪態に 子の成長と信じつつ
　朝になったら　笑顔で「おはよう。」　肝っ玉母さん（港北・篠原中）
・子の入学式　久しぶりの横浜市歌　歌える自分がちょっと嬉しい　丹羽理恵（港北・小机小）
・頑張れという言葉を飲みこんで、頑張ったねと口に出す。
　「おかえり。今日も頑張ったね。」　竹本靖代（青葉・奈良中）
・おこらない　毎朝ちかい　夜ざせつ　川崎一奈（戸塚・秋葉小）
・躓いて　初めて知る子の心　何を見てきた
　何も見て居ず　心で詫びる　それでも父親　愚父（泉・東中田小）

受賞されたみなさん、おめでとうございました♡　（敬称略）